

## 平成30年度 第2回さいたま市健康づくり推進協議会 議事概要

### ◎ 日時

平成31年1月10日（木）午前10時00分～11時30分

### ◎ 場所

さいたま市役所 議会棟2階 第6委員会室

### ◎ 出席者

《委員》恩田委員、片柳委員、熊谷委員、近藤委員、嶋垣委員、鈴木（花子）委員、関委員、中村委員、松本委員、桃木委員（会長・議長）、渡邊（廣次）委員、渡辺（裕）委員（会長職務代理）

《関係課》緑区保健センター：金子所長、中央区保健センター：岩谷所長補佐、保健所地域保健支援課：武田主幹

《事務局》保健部：木村部長、健康増進課：今野課長、橋詰補佐、伴田主任、齋藤主任、長倉主任

《傍聴人》なし

### ◎ 欠席者

《委員》金谷委員、小山委員、鈴木（豊彦）委員

### ◎ 会議資料

《事前配付》

- ・次第
- ・さいたま市健康づくり推進議会委員名簿
- ・資料1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理について（A3・8P）
- ・資料2 平成30年度ヘルスプラン21（第2次）に関する事業の取組事例（A4・73P）
- ・資料3 健康増進法の改正について
- ・参考資料1 喫煙率及び受動喫煙の状況について

《当日配付》

- ・さいたま市健康づくり推進協議会関係課職員名簿（1枚）
- ・座席表（1枚）
- ・禁煙外来リスト（第2版）（A5・6P）
- ・べにあか第20号、第21号（渡邊（廣次）委員当日持参）

## 1 開会

## 2 議事

議事録は、会長に一括で承認いただき、市ホームページ上で議事概要を公開することによろしいか。

委員：異議なし

### (1) さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料1 さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の進行管理について
- ・資料2 平成30年度ヘルスプラン21（第2次）に関する事業の取組事例

#### 【質疑・応答】

桃木議長：委員の全ての皆様にご発言願いたい。恩田委員から願います。

恩田委員：一般市民の目線で2つ質問する。中間評価の市民調査はどのように行っているか。また、中間評価のプロセス評価について、事務局と当委員にて評価しているが、市民に評価してもらうことが重要と考えるが、その点はどのようにお考えか。

事務局：市民調査について、市内在住の15歳以上の男女各2,500人の計5,000人を対象に、年齢階層毎に無作為抽出により実施している。また、プロセス評価について、健康づくりのために展開されている取組の内容を市民の方々にお知らせすることが難しいことから、市民の方から評価はいただいておりますが、本協議会の中で評価している。貴重なご意見として検討していく。

片柳委員：さいたま市保健愛育会とは、赤ちゃんから高齢者までの日常生活を応援するボランティア団体である。当会の行っている活動がこのように評価されていることに満足している。

熊谷委員：「さいたま市ヘルスプラン21（第2次）目標指数となる数値の推移」において、「3歯・口腔の健康」の「40歳で喪失歯のない人の割合」がベースライン値の77.5%（H23）から平成30年度の90.8%（H29）へと急激な伸び率となっている。どのような事業などを行ったか、当協会の取組の参考にしたいため伺いたい。また、「6 休養・こころの健康」の「自殺者数（人口10万対）」の平成30年度13.7人（H29）について、全国平均と比較してよいのか伺いたい。

議長：歯科の専門的な事柄に関しては歯科医師会の渡辺（裕）委員にお答えいただきたい。歯科の一般的な事柄、自殺に関することに関しては、事務局に願います。

事務局：歯科の部分について、若い方の口腔ケアに対する意識が高まっていることが要因と考える。またフッ化物配合歯磨剤のシェアが拡大していること、かかりつけ歯科医を持つことの啓発などの複合的な要素があると考えている。

渡辺（裕）委員：成人歯科健康診査について、40歳が無料、41歳から70歳までが600円で受診でき、その受診者が多いことが一つの要因ではないかと考える。しかし、詳細は

不明である。

事務局：自殺のご質問について、「中間評価報告書」120頁の「(6) 休養・こころの健康」の「⑧自殺者数（人口10万対）」に記載してあるが、平成28年度の調査においては、本市は16.4、国は18.5となっており、自殺者数は国より低い水準で推移している。

議長：医師会としても自殺者数が減少していると感じている。今後も啓蒙運動をきちんと行っていく必要がある。

近藤委員：薬剤師会では、学校で服薬指導、受動喫煙・COPD・薬物乱用防止に関する啓発活動などを行っている。影響評価票「7 喫煙」の「COPDを知っている人の割合」について、平成24年度から平成28年度に上昇している結果から、当会でやっている事業が貢献できていることが窺えるため、今後も事業を継続していきたい。

嶋垣委員：私の所属する健康管理センターでは、社員に対して講演会など様々な啓発活動を行っているが、関心のある方とない方に二分されている。講演会の開催、啓発パンフレットの配布を行ったとしても、関心のない方への効果が薄いと感じており、良いアプローチ方法があれば伺いたい。また、禁煙外来治療のための通院を行わない方、仕事で忙しく通院できない方などのために、スカイプなどを利用した遠隔の禁煙指導を試験的に開始した。行政でも、遠隔での禁煙プログラム等について紹介しているか伺いたい。

事務局：我々保健指導を行う立場でも、関心のない方へのアプローチは課題となっている。関心のない方は、ポスター・チラシ等に関心を示さないため、マスメディアを使った広報の機会を増やしていきたいと考えている。また、健康マイレージ事業では、関心のある方を身の回りに増やしていき、その方からの口コミ効果により、関心のない方に少しでも関心を持ってもらうことを考えている。今後も多方面からのアプローチを続けていきたい。禁煙に関する遠隔の取組について、市民向けに活用できるかは今後の課題として参考にさせていただきたい。

議長：禁煙外来の遠隔診療について、忙しい方がオンラインで画面を通して診療し、処方箋を出して、薬をもらうことになると思われる。外来では、呼気中の一酸化炭素の濃度測定、診察などで禁煙状況を判断するが、オンラインの場合、禁煙がうまくいっているかどうかどのように医師が判断しているか疑問が残る。

鈴木（花）委員：健康・体力づくりにレクリエーションは欠かせないものと考えている。健康・体力づくりは、ただ取り組もうとしても億劫で継続せずやめてしまうことが多いと聞いている。健康・体力づくりを楽しみながら、かつ気持ちよく取り組むためにはレクリエーションが適していると感じている。当協会では、レクリエーションを老人クラブ、小学校・公民館などで活動する団体に普及させるため、どのように取り組んだらよいか模索している。

関委員：一次予防に関して、工夫しながら継続的に取り組んでいることが分かった。特定健診の受診率が上昇していることから、健康に対する意識が向上した成果であり、一次予防の取組が実を結んでいると思われる。

さいたま市ヘルスプラン21（第2次）目標指標となる数値の推移において、「6休養・こころの健康」の「自殺者数（人口10万対）」について、自殺者数が減少傾向にある旨の報告があったが、その年齢構成を伺いたい。

事務局：本市の自殺対策は、第2次の計画に入っており、自殺対策基本法の改正に先駆けて計画を策定し、庁内で横断的に取り組んできた。自殺者数の年齢構成については、庁内検討会の中で手段、場所などを含めてプロファイル分析を行っている。平成28年度に比べると30歳代、80歳以上が増加し、その他の年代では減少していた。自殺対策については、市ホームページ上に公開しているのでご参照ください。

中村委員：当組合で実施した健康づくりの取組は、「中間評価報告書」86頁の「1 肥満者の増加」、「2 糖尿病の有病者および予備軍の増加」の対策に該当する。「1 肥満者の増加」対策として、高齢者向けの女性部に、歩け歩け大会、グラウンドゴルフ大会、ゲートボール大会などを開催している。体を動かすことで肥満防止のほか、地域コミュニティの活性化に貢献している。「2 糖尿病の有病者および予備軍の増加」の対策として、グラウンドゴルフ大会、野球大開会などを実施。体を動かすことは肥満対策だけでなく、糖尿病対策にも寄与している。また、健康診断結果を基に役職員に対して産業医面談を行い、食生活改善の指導、検査・治療など通院の必要性について再認識してもらう機会を与えることで、糖尿病抑制へと繋げている。

松本委員：自治会連合会では、広報物の回覧、掲示版への掲示などを行っている。自治会は、市内に845程度が組織として存在するが、規模の小さいところでは組織として成立しているかどうか不明なところがある。しかしながら、どの自治会でも夏休みの時期にラジオ体操を実施し、子ども、高齢者などが参加している。最近の傾向としては、健康に関して、子どもより高齢者が気を付けていることが多いと感じる。健康に関心の高い高齢者は、自主活動として「いきいき百歳体操」を行っていると聞いている。広めるためにも、もっとPRできるとよいと考える。高齢者の運動として、バレーボールを例に挙げると、50歳以上のいそじ大会、60歳以上のことぶき大会、70歳以上のスーパーことぶき大会などがあり、大会によっては全国大会まである。このような生涯スポーツにより、ただ単に寿命が延ばすだけでなく、健康である期間も延ばすことが重要と考える。一方、運動したい人が、運動する公園などの場所の確保が難しく、運動をしたくてもできないといった問題がある。

渡邊（廣）委員：「さいたま市ヘルスプラン21（第2次）影響評価票」の1頁に「運動習慣のある人の割合」について、ベースラインとほぼ横ばいとなっている。働き盛り世代の人は、レクリエーションを行う時間がないため、運動する時間が取れない。健康マイレージでは、歩行を促しているが、それも時間がなく困難な人がいる。そのため、最近では自転車健康づくりを人が多くいるため、自転車による運動も健康マイレージで活用できるとよいと考える。レクリエーションについては、認知度が低いものが多い。ラダーゲッターのようなゲーム性を含んだレクリエーションを周知することで、ゲームしながら健康づくりを進めていきたい。

「いきいき百歳体操」は5、6人程集まれば自主グループ化とするよう市から促さ

れているが、公民館、体育館などの場所の確保は困難である。そのため、空き家を活用してはどうかと考える。

紅赤とは、北浦和で発見された大変おいしい芋であり、健康にとってもよい。今は川越市で大量に生産されている。さいたま市でも芋を食べる習慣をつければ、肥満の減少に繋がると考える。

若い人達向けの健康づくりとして、小・中学校の運動会には親が多く参加するため、運動場の一角に健康診断などを行う場を設けてはどうかと考える。子どもの運動会への参加と同時に、親の健康チェックの場としてはどうか。

渡辺（裕）委員：歯科検診については、1歳、3歳、小学生から高校生までと40歳以上において実施しているが、未実施の4歳、5歳、18歳以上40歳未満に対しての対策が必要と考える。就職後、職場において健康診断が行われているが、歯科検診を実施している所はほぼない。かかりつけ歯科医の必要性について周知を図っているが、就労者は仕事で忙しく歯医への通院が困難な方が多い状況であるため、歯科医師会として対応策を検討している。

歯科医師会では、障害者が受診できる口腔保健センター設置に向けた協議をさいたま市と行っている最中である。昨年、障害者歯科相談医ガイドブックを作成した。骨粗鬆症の患者で、ビスホスホネート製剤を服薬していると3か月程度抜歯ができない。

医師が薬を処方する際に、患者に伝えないことが原因である。医師会と歯科医師会の連携が必要と考える。

議

長：「さいたま市ヘルスプラン21（第2次）目標指数となる数値の推移」において、医師会では、がん検診、循環器疾患・糖尿病の予防、特定健診等が該当するが、受診率が目標に到達しないことを懸念している。市、医師会において、啓発に努めているが、受診率が向上しない。今後も受診勧奨に努めてもらいたい。

自殺対策として、さいたま市と共同でGPEネット事業を行っている。その啓発運動もあり、一般の医療機関から精神科の専門医師への橋渡しができるようになった。その結果により、自殺者の減少に繋がっていると思われる。

## （2）受動喫煙対策について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料3 健康増進法の改正について
- ・参考資料1 喫煙率及び受動喫煙の状況について

### 【質疑・応答】

議

長：当院では、禁煙外来を行っているため、施設内、敷地内を禁煙としているが、禁煙外来受診をした患者さんが外で喫煙している光景を目撃することがある。なんともしがたいことである。今後、法改正により、禁煙の機運が高まればよい。

(3) その他

事務局：3点ある。1点目は、禁煙外来リスト（第2版）について、今年度中に1万部制作予定となっている。完成後、ご報告させていただく。

2点目は、委員の改選について。任期が平成31年3月31日までとなっている。皆様には続投をお願いしているため、書類の送付させていただくのでご返信願いたい。

3点目は、2年間の評価としてプロセス評価をしていただきたい。今後アンケートを送付するため、こちらもご返信願いたい。

議長：最後に1つ述べさせていただきたい。さいたま市では物忘れ検診を行っている。高齢者の方を対象に行っているため、地域の方に受診を促してほしい。

3 挨拶

保健部長挨拶

桃木会長挨拶

4 閉会